



TITLE:

獸類の星座

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 獸類の星座. 天界 1926, 6(66): 344-346

ISSUE DATE:

1926-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160557>

RIGHT:

# 獣 類 の 星 座

水 野 千 里

サアいらつしやい、いらつしやい。大評判の「星の博覧會」

満都の人氣を集めた、「星の博覧會」入場料タツタ拾銭！ 早くお入りなさいニコニコの太陽、美しい三日月、大きな輪のある土星。……ヒマラヤ山で生捕つた大熊、小熊。東洋産の大犬、小犬。南支那の獅子、小獅子。日本産の海蛇。印度から出た冠、南洋の冠……美人のカシオペア。綺麗なアンドロメダ嬢……餘興館でテーブル山に登つて、長い々々エリダン河を眺め、變光星相手に、巨星、倭星見物。遠い々々星雲は大望遠鏡で、御覽に入れます。大評判の「星の博覧會」

サア皆々様、御入場下さい。早い程がよろしい。サア入つた入つた。カチカチ々々。

以上は目下執筆中の「星の博覧會」のはしがきであります。坊ちゃん、嬢サン方に御目にかける積りで書いて居ます。其の中の動物館、第一部「獸類」の一項を下に記しますから、御批評を頂き度いのであります。

## I、北天にある星座。

○大熊 これは印度ヒマラヤ山で生捕りました大熊で御座います。胴中から尾にかけて、七つの星があります。中央のものが三等星で、他の六つは何れも二等星で、北斗と名付けられて居ます。その形が柄杓によく似て居ますから一目見て知るこゝが出来ますので、案内星の中で第一に位するものであります。その七つの星の名前は、大熊星座の  $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta$  といひまして、支那では天樞、天璇、天機、天權、玉衡、開陽、搖光といひます。ζ星の傍に五等星アルコーア(g星)があります。支那名は輔星といひます。二つの星が近距離に見えますのを二重星といひます。ζ星とg星との角度は11分であります。望遠鏡で見ますと14秒の距離に四等星があります。

○小熊 この小熊は親熊に別れ、印度ベンガル灣岸を徘徊して居ましたところを捕へたものであります。尾の端にあります二等星αは、所謂北極星で、真正の北極から僅かに一度余りしか離れて居ません。α星は天皇大帝といひまして支那では帝王の位に見立て、各星は之を中心としまして取圍んで居ます。この星は大熊星座のβとαとを結び付けそれを延長しまして、約五倍のところにあります。北極星を望遠鏡で見ますと、二つの星が近くにあります。

○牡羊 次の牡羊もヒマラヤ山に生れましたもので、頭にあります二等星は

α、三等星はβで、十二宮の一つの白羊宮に當つて居ます。角にあります四等星γは1664年フックの発見しました二重星で、四等星二つ、その距離は8秒あります。

○山猫 これは印度ガツ山に生れましたもので、40星は三等星で、12、14、1538、の四等星は何れも二重星であります。

○牡牛 印度ガンガ河の邊、パトナに生れました牡牛で、十二宮の一つ、金牛宮であります。右眼のところにあります一等星はα星で、アルデバランと呼ばれ、一等星の標準となるものであります。左の角の端にあります二等星はβ、右の角の端にあります三等星はγ、ハイヤデスといひますのは、牡牛の顔にありますα、β、γ、δ等の星々の集團をいふのであります。今一つプレアデスといひます小集團があります。肉眼では五つか、六つしか見えませんが、望遠鏡で見ますと二千以上の星が集まつて居るこゝが判ります。

○駒 印度のチユクチ半島の産で、頭にあります四等星はα、β星は五等星、δ星も五等星であります、これは二重星で、駒の口のところにあります。

○海豚 印度ベンガル灣の北東部に捕獲致しました海豚。α、β、γ、δの四星は何れも四等星、βと五等星のγとは二重星であります。

○龍 印度支那に年久しく住んで居ました龍は、頭に二等星30(星の番號)三等星βを戴き、長い體を四ヶ所で巻いて居ます。四千年前の北極は、龍の尾に近いところにあります。四等星αで、支那人はこれを右樞と呼びまして、その時代には北斗は現今より一層北極に近く、その當時の航海者、旅行者にこゝりましては好目標であつたのでありませう。

○小犬 小犬は本邦内地産で、胸中の一等星αはプロキオンといひます一等星であります。その傍に十三等星がありまして、お互に關係のあります。運動をして居る連星であります。耳のころにはあります三等星はβであります。プロキオンは希臘語「犬の先驅」の意で、シリウスより一步先に東天に現はれますので有名であります。

○麒麟 南米産の首の長い麒麟には四等星、五等星併せて二十二箇あります。

○獵犬 牛飼ひにつれられて居ます獵犬で、この星座には著しい星はありませんが、望遠鏡で見ますと渦狀星雲があります。

○狐 鳥をくはへて逃げて行きます狐を追つかけて、天の河で捕へましたのがこの狐であります。著しい星はありません。

○小獅子 揚子江附近で捕へました、獅子の子で四等星が三つあります。

○ベガソス この馬は北支那の産で、羽根がありますのが特徴で、α、β、γの三星とアンドロメダ星座のαとの四星で、四角形を作つて居ます。これをベガソスの四角形といひまして、北斗が北の地平線下に没して居ますときには、大空に高く輝いて居ますから、北斗に代つて案内星となるのであります。

## II、赤道に跨れる星座。

○獅子 揚子江附近で捕へました大獅子。これは十二宮の一つでありまして、胸のところにあります一等星をレグルスといひ、尾にあります二等星は $\beta$ であります。レグルス是一等星中では光度が弱いものでありますが、黄道上にありますので、その位置は往古バビロニアの天文學者によつて観測せられ、其の後ヒツバルクスは、その観測と自分の観測とを比べて此の星の黄經の變化を見出しましたのであります。

○一角獸 亞細亞産の一角獸、鼻のところにあります四等星 $\epsilon$ は重星で、右足にあります五等星 $\beta$ も同じく重星で、S、U星何れも變光星であります。

○鯨 アラビヤ海で捕獲しました大鯨、頭にあります三等星は $\alpha, \gamma$ 、尾に近いところにあります二等星は $\beta$ 、首にあります $\delta$ 星はミラと稱せられ、最初に發見せられました變光星であります。この星は光度の變化が著しくありまして極大二等から、極小十等迄も降り、その上に最大光度が二等、時々しましては三等で、その變光の原因が今日迄未だに判明しません。

## III、南天にある星座。

○大犬 この大犬は東部亞細亞の産で、鼻のところにあります一等星をシリウスといひまして、恒星の中で最大光輝を放つて居ます。シリウスは吾々に最も近い星の一つで、その光輝が強く、丁度一月一日の午前〇時に南の天に高く諸星を壓して居ます。

○狼 南洋スマトラ産の狼、腹から後肢にかけて三等星が三つあります。

○山羊 阿弗利が洲の産、十二宮の一つ摩羯宮であります。頭にあります三等星は $\alpha, \beta$ で、尾の方に三等星が $\gamma$ あります。 $\alpha$ 星は肉眼で二重星であることが判ります。 $\beta$ は双眼鏡で見ます二重星であります。

○兎 南米の産、三等星が四つあつて、R星はその色が特に赤いので知られて居ます。

獸類の星店は以上の二十一星座であります。

## 通 信

山本先生長閑な春が田舎にも訪れました。お變りなく同好會のためにお盡し下さる事を喜んでゐます、暫くすれば全世界に輝く事でせう、私も何かして、少しでもこの會ある事を地方人に紹介したいと考へまして、Yさんに相談致しました所快諾を得ましたので、二人が主催者(少し名が大きすぎますが)となりまして恩師に望遠鏡を借りる事を申し出でました所これも早速快諾して下さいまして四時のを借りる事が出来ました、當日は水野先生が望遠鏡を持つてお出でになり、少しですが會員がお集りになり學生も少し出席してくれましたので大へん嬉しいでした、又新學期になれば準備を整へて、同志會をする考へです。(大西生)